

給食だより5月号

令和8年5月1日
大田区立東糀谷小学校
校長 小泉 満知子
栄養士 三枝 伸世

さわやかな緑の風が吹く季節となり、新年度がスタートしてあっという間に、1か月が過ぎました。新しい環境にも慣れてきたでしょうか？この時期は、環境の変化と、日々の寒暖差で体調を崩しやすくなります。5月と10月を大田区では「早寝・早起き・朝ごはん」月間としています。規則正しい生活をして、元気いっぱいにご過ごしましょう。

成長期に必要なカルシウムをとろう

成長期にあたる小・中学生は、成人とくらべて、骨の成長が盛んな時期です。丈夫な骨や歯をつくるためには、カルシウムを十分にとることが大切です。成長と共に骨量が増えるこの時期に骨を強くしておくことで、将来、骨粗しょう症になりにくくなります。

またカルシウムは、筋肉の収縮や神経を安定させる役割もあります。心身共に健康に成長するために、毎日の食事でカルシウムをしっかり取るように心がけましょう。



1日にとりたいカルシウム量 (mg)

	6~7歳	8~9歳	10~11歳	12~14歳	15~17歳
男子	600	650	700	1000	800
女子	550	750	750	800	650

カルシウムを多くとれる食品



食品名	摂取量	カルシウム含有量
牛乳	コップ1杯	230mg
ヨーグルト	100g	120mg
こまつな	100g	170mg
みずな	100g	210mg
ししやも	50g	180mg
納豆	1パック(50g)	46mg
木綿豆腐	100g	93mg

乳製品や小魚、大豆製品、緑黄色野菜などに多く含まれます。特に乳製品のカルシウムは体への吸収率が高く、効率よくとれます。

©少年写真新聞社2026

カルシウムと一緒にビタミンDをとるべし

体内でカルシウムの吸収を高めるには、ビタミンDが必要です。いわしやさんまなどの魚や、まいたけやきくらげなどのきのこ、卵などに多く含まれています。特に、しらすなどの小魚は、カルシウムもビタミンDも豊富に含んでいるので、おすすめです。

【ビタミンDを多く含む食品】



まいたけ



さけ

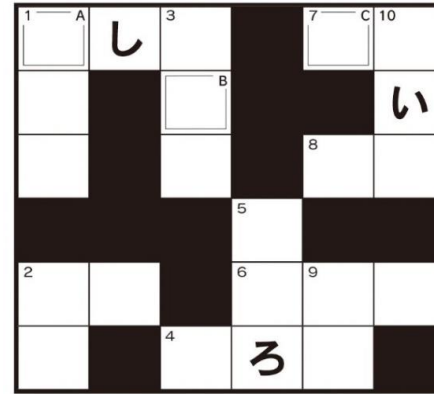


いわし

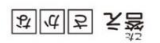
©少年写真新聞社2026

食育クロスワード

□に当てはまる文字を考えてみよう



A, B, Cの文字を当てはめてみよう



©少年写真新聞社2026

手の大きさに合ったはしを選ぼう

はしを上手に使うためには、自分の手の大きさに合ったものを使うことが大切です。はしを持った時に最も美しく、使いやすいとされる長さは、親指と人差し指を直角に開き、それぞれの指先を結んだ長さの1.5倍です。これを、昔の長さの単位であらわすと、「ひとあたま」といいます。

人差し指と親指の長さの1.5倍



©少年写真新聞社2026

はやね はやお あさ げっかん 早寝早起き朝ごはん月間



朝の太陽光と朝食が体内時計をリセットし、集中力や体力を高めます。こどもの成長だけでなく、大人のストレス軽減にも効果的なので、この機会にぜひ家族全体で早寝早起き朝ごはんに取り組んでみてください。朝に食欲のない人は、まず1品から始めて少しずつステップアップしましょう。



©大田区